

レファレンス・トピック

質問：「行く」の「いく」と「ゆく」は、どう使い分ける？

文章を書くとき、似ている言葉の使い分けが気になったりしませんか？今回は「行く」という言葉の違いについて書かれた本をご紹介します。（※【】は府立図書館の請求記号）

■『**日本国語大辞典 第1巻 あ-いろこ 第2版**』（小学館 国語辞典編集部 / 編集 小学館 2000.12）【813.1/66N/1】

『日本国語大辞典』では、語の由来や語形の変化、語義・用法の変遷、類義語との差異などを特に説明できるものについては、項目内に「語誌」として表示され解説されています。「いく【行・往】」（p.881）の「語誌」には、時代ごとの使用度合いや使い分け等が記載されていて、現在については「『常用漢字音訓表』で「いく」「ゆく」双方が認められているが、「ゆく」に比べると「いく」は話し言葉的な感じを持っている。」と解説されています。

■『**言葉に関する問答集:総集編**』（文化庁/編集 大蔵省印刷局 1995.3）【811/14N】

文化庁刊行の『言葉に関する問答集』は、日常生活における具体的な言葉の使い方、書き方、読み方等広く関心のもたれている問題を取り上げて、一問一答形式で解説されている資料です。「総集編」には全20集のうちから645項目が収録されています。

p.337に「『学校に行く』と『学校にゆく』とでは、どちらを採るべきか。また『行く』は、『いく』と読むべきか、『ゆく』と読むべきか。」の問いがあり、「両者の差は、文体上の問題で、どちらかと言うと、『ゆく』の方が文章語的で、いくぶん固い言い方、改まって物を言う場合の言い方であるのに対し、『いく』の方は口頭語的で、いくぶん柔らかい言い方、くだけた言い方だと言えるだろう。」と書かれています。

■『**講座現代語 第6巻 口語文法の問題点**』（森岡健二 / [ほか]編集 明治書院 1966）【270/441/#】

この本には<どう違うか>というテーマのもと似ている言葉を具体的に取り上げた16の論考が収録されています。根来司「『いく』と『ゆく』」（p.358-362）には、いくつかの用例を挙げながら、「その『いく』と『ゆく』とはどう違うかと聞かれたら、わたくしは<『行く』という動作に意志が関与する場合は『いく』で、意志が関与せず自然にという場合は『ゆく』である>と答えたい。」（p.358）と書かれています。

■『**日本語の勘どころ：あなたが気づかない誤解・誤用の発見**（ノン・ブック）』（大野透/著 祥伝社 1978.4）

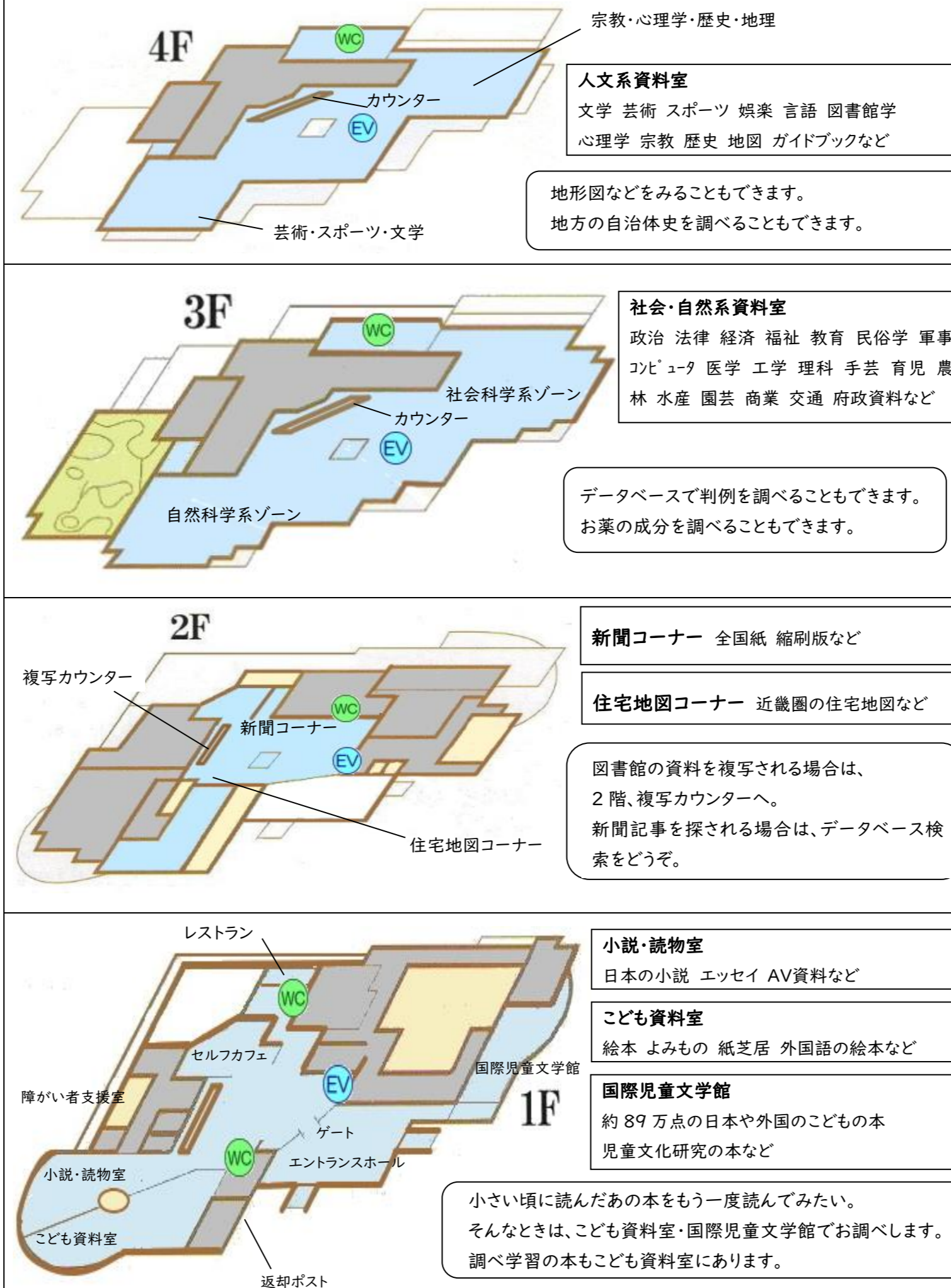
日本語の特性を理解できるよう、要点や法則を紹介している本です。p.75-79に「1章 誤用を避ける法則 (C) どう書くのか (まぎらわしいひらがな) ①『行く』—『いく』か『ゆく』か」があり、「『行く』は、もともとは『ゆく』であったが、平安時代から、口語では『いく』(ことに『いき』の形で)の勢力がだんだん増し、現在の口語では、『いく』がふつうになっているからである。」（p.77-78）と掲載されています。

※大阪府立図書館では所蔵していない本ですが、国立国会図書館デジタルコレクションの図書館・個人送信資料として閲覧することができます。

<https://dl.ndl.go.jp/pid/12447029/>

こんな資料を探しているけど、探し方がわからないというときはぜひ、お気軽にレファレンスサービスをご利用ください！

館内レファレンス案内図



あなたの知りたいこと 調べたいこと お手伝いします！

レファレンスサービスのご案内

暮らしの中の疑問から、
仕事に必要な調査まで、
図書館の資料やデータを使って
調べ物や資料探しのお手伝いをする、

それが**レファレンスサービス**です。

例えば・・・

トピック

「行く」の「いく」と「ゆく」は、
どう使い分ける？



回答例は裏面で！

〒577-0011 東大阪市荒本北1-2-1
☎06-6745-0170 FAX 06-6745-0262

大阪府立中央図書館